

Git のサブモジュールで困ったら 読む本

mochikoAsTech 著

2020-09-12 版 mochikoAsTech 発行

はじめに

2020 年 9 月 mochikoAsTech

本書を手にとってくださったあなた、こんにちは！あるいは、はじめまして。「Git のサブモジュールで困ったら読む本」の筆者、mochikoAsTech です。

想定する読者層

本書は、こんな人に向けて書かれています。

- 仕事で使っているリポジトリにサブモジュールがいる
- なぜか git pull しただけなのにサブモジュールの差分が出て納得いかない
- git checkout して別ブランチに移動しただけなのにサブモジュールの差分が出て納得いかない
- ちゃんと git pull したのにサブモジュールが更新されなくて困っている
- サブモジュールのフォルダまで移動して git pull しただけなのに差分が出てわけが分からない

マッチしない読者層

本書は、こんな人が読むと恐らく「not for me だった…（私向けじゃなかった）」となります。

- Git について何も知らないので 1 から学びたい
- プロジェクトでサブモジュールを導入すべきか迷っていて判断材料が欲しい
- いまからリポジトリにサブモジュールを入れようとしているので方法が知りたい

本書のゴール

本書を読み終わると、あなたはこのような状態になっています。

- サブモジュールの仕組みが分かっている
- 意図せぬサブモジュールの差分が出た時に対処できる
- 読む前よりサブモジュールがちょっと好きになっている

免責事項

本書に記載されている内容は筆者の所属する組織の公式見解ではありません。

また本書はできるだけ正確を期すように努めましたが、筆者が内容を保証するものではありません。よって本書の記載内容に基づいて読者が行なった行為、及び読者が被った損害について筆者は何ら責任を負うものではありません。

不正確あるいは誤認と思われる箇所がありましたら、必要に応じて適宜改訂を行いますので GitHub の Issue や Pull request で筆者までお知らせいただけますと幸いです。

<https://github.com/mochikoAsTech/SubmoduleUpdated>

目次

はじめに	3
想定する読者層	3
マッチしない読者層	3
本書のゴール	4
免責事項	4
 第 1 章 ああサブモジュール、君のこと（挙動）が分からない	 7
1.1 Git とは	7
1.2 Git のサブモジュールとは	8
1.2.1 サブモジュールの便利な使用例	8
1.3 サブモジュールの作り方	9
1.4 サブモジュールを含むリポジトリをクローンしてこよう	12
1.5 最初からサブモジュールの中身も含めて全部連れてきたかった	12
1.6 親子の関係	13
1.7 git pull しただけなのに差分が出た	13
1.8 git checkout しただけなのに差分が出た	13
1.9 サブモジュールで git pull しただけなのに差分が出た	13
1.10 正しい差分の無くし方	13
 あとがき	 15
PDF 版のダウンロード	15
Special Thanks:	15
レビューアー	15
参考文献・ウェブサイト	16
 著者紹介	 17

第 1 章

ああサブモジュール、君のこと (挙動) が分からない

1.1 Git とは

本書は Git のサブモジュールの挙動が分からずに苦しむ人のための本なので、Git そのものについては解説しません。「Git について何も知らないので 1 から学びたい」という方には、湊川あいさんの書籍がお勧めです。

- わかばちゃんと学ぶ Git 使い方入門
– <https://www.amazon.co.jp/dp/4863542178>

「お金をかけずにまずは無料で学びたい」という場合は、先ほどの本の元となったウェブ連載を読みましょう。書籍内容の序盤が体験できます。

- マンガでわかる Git 第 1 話「Git ってなあに？」
– https://next.rikunabi.com/journal/20160526_t12_iq/

さらに SourceTree のような GUI を通して Git を使う方法だけでなく、コマンドで Git を使う方法が学べる「コマンド編」も連載されているそうです。

- マンガでわかる Git ～コマンド編～ 第 1 話「リポジトリを作ってコミットしてみよう」
– https://www.r-staffing.co.jp/engineer/entry/20190621_1

Git は付け焼き刃の操作だけを学ぶよりも、どういう仕組みで、どんな理屈で動いているのかをしっかりと学んだ方が、結果としては理解の速度が上がります。わかばちゃんと一緒にたくさん転んで、Git を楽しく学んでみてください。

1.2 Git のサブモジュールとは

サブモジュールとは、Git の機能のひとつです。サブモジュールを使えば、あるプロジェクトのリポジトリを、別のリポジトリのサブディレクトリとして扱えるようになります。

急に「サブディレクトリ」と言われてもピンとこないと思うので、便利な使用例をご紹介します。

1.2.1 サブモジュールの便利な使用例

筆者は、技術書の原稿を Git のリポジトリで管理しています。この原稿リポジトリの中には、実際の原稿ファイルや画像ファイルだけでなく、prh^{*1}という校正ツールがあり、その中には次のように「表記揺れを自動チェックするための正誤表」が含まれています。

```
- expected: 筆者
  pattern: 著者
- expected: 本書
  pattern:
    - この本
    - 本著
- expected: つたえる
  pattern: 伝える
- expected: 分かり
  pattern: わかり
```

筆者は本を一冊書くたびに、少しずつこの正誤表に新しい内容を追記しています。そのため新しい本の原稿リポジトリを作るたびに、ひとつ前の原稿リポジトリから、正誤表を含む校正ツールのフォルダ（prh-rules）をまるごとコピーしてくる必要がありました。

コピーは面倒くさいですし、さらに同時並行で色んな原稿を書いていると、あちらでの変更をこちらに持って来たり、今度はこちらでの変更をあちらに持って行ったりと、Git を使っているとは思えないようなコピーペーストを繰り返す羽目になります。微妙に内容の違う正誤表があちこちにあるのは気分的にもよくありません。ああ、校正ツールのフォルダだけ別リポジトリに切り出せたらいいのに…！

そんなときに便利なのがサブモジュールです！ 校正ツールのフォルダ（prh-rules）だけをひとつのリポジトリとして用意しておき、それぞれの原稿リポジトリでサ

^{*1} ProofReading Helper の頭文字で prh です。 <https://github.com/prh/prh>

ブモジュールとして指定してやればいいのです。

先ほど「サブモジュールを使えば、あるプロジェクトのリポジトリを、別のリポジトリのサブディレクトリとして扱えるようになります。」と説明しましたが、これを実態に即した形で説明すると「サブモジュールを使えば、校正ツールのリポジトリを、それぞれの原稿リポジトリのサブディレクトリとして扱えるようになります。」となります。

サブモジュールは便利な一方で、挙動を理解せずに使うとトラブルの元になりやすいです。前述のように「たしかに！これは便利だ！」と心の底から思えるときにだけ使うのがお勧めです。

1.3 サブモジュールの作り方

まず親を作ります。

```
メインのリポジトリ (main_project) を作る  
$ git init main_project
```

続いてメインのリポジトリのサブモジュールとして、既に存在している別のリポジトリを追加します。

```
作ったリポジトリのディレクトリに移動する  
$ cd main_project  
  
サブモジュールとして「SubmoduleUpdated」というリポジトリを追加する  
$ git submodule add https://github.com/mochikoAsTech/SubmoduleUpdated
```

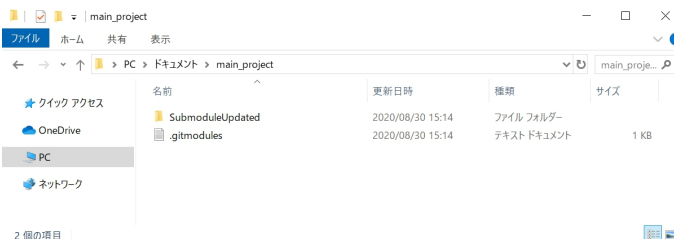
今回はサブモジュールとして、本書の原稿リポジトリを追加してみました。^{*2}追加した SubmoduleUpdated をクローンしてくるため、こんな表示がされたと思います。このときサブモジュールの中身はクローンしてきますが、サブモジュールのさらにサブモジュール以下については再帰的にはクローンしてくれないので注意が必要です。

^{*2} 今回は GitHub の URL を指定しましたが、このような絶対の URL に限らず、`git submodule add ../SubmoduleUpdated` のような相対パス、サブモジュールとしてローカルのリポジトリを指定することも可能です。ただし相対パスで追加すると、サブモジュールのリモートリポジトリの URL (`remote.origin.url`) が `C:/Users/mochikoAsTech/Documents/SubmoduleUpdated` や `../SubmoduleUpdated` のようになってしまうので、特に理由が無ければリモートの URL で指定の方がお勧めです。

第1章 ああサブモジュール、君のこと（挙動）が分からない

```
$ git submodule add https://github.com/mochikoAsTech/SubmoduleUpdated
Cloning into 'C:/Users/mochikoAsTech/Documents/main_project/SubmoduleUpdated'...
remote: Enumerating objects: 162, done.
remote: Counting objects: 100% (162/162), done.
remote: Compressing objects: 100% (143/143), done.
remote: Total 162 (delta 43), reused 26 (delta 7), pack-reused 0 receiving object
objects: 100% (162/162), 518.33 KiB | 772.00 KiB/s, done.
Resolving deltas: 100% (43/43), done.
```

なおサブモジュールを追加するとき、先ほどのように特にディレクトリ名を指定しないと、サブモジュールのリポジトリ名（SubmoduleUpdated）がそのままディレクトリ名となります。（図 1.1）



▲図 1.1 SubmoduleUpdated がサブモジュールとして追加された

ディレクトリ名を変えたいときは、次のように末尾でディレクトリ名（sub）を指定します。するとディレクトリ名を「sub」にした状態でサブモジュールを追加できます。

```
git submodule add https://github.com/mochikoAsTech/SubmoduleUpdated submodule
```

サブモジュールを追加してどうなったのか、`git status` でメインリポジトリの状態を確認してみましょう。

```
$ git status
On branch master

No commits yet

Changes to be committed:
  (use "git rm --cached <file>..." to unstage)
    new file:   .gitmodules
```

```
new file:   SubmoduleUpdated
```

.gitmodules と SubmoduleUpdated の 2 つが、新しいファイルとして認識されています。

サブモジュールを追加すると、このように親のリポジトリに .gitmodules というファイルが生まれます。これはテキスト形式の設定ファイルで、テキストエディタで開くと、こんなふうにサブモジュールのディレクトリパスと、リモートの URL が書かれています。サブモジュールを複数追加すると、このファイルにその分だけ追記されています。

```
[submodule "SubmoduleUpdated"]
  path = SubmoduleUpdated
  url = https://github.com/mochikoAsTech/SubmoduleUpdated
```

他の人がサブモジュールを使っているメインリポジトリをクローンすると、Git はこのファイルに書かれた内容を元に、サブモジュールの取得元を把握することになります。

続いて `git diff` で SubmoduleUpdated を見てみましょう。コミット前のファイルの差分を見たいので、`--cached` オプションを付ける必要があります。

変更前の`--- /dev/null` は、このファイルが新たに作られたものであることを表しています。

```
$ git diff --cached SubmoduleUpdated
diff --git a/SubmoduleUpdated b/SubmoduleUpdated
new file mode 160000
index 0000000..6f47087
--- /dev/null
+++ b/SubmoduleUpdated
@@ -0,0 +1 @@
+Subproject commit 6f47087f1c9079ea6c677702da23ca040d0a13ed
```

実際は SubmoduleUpdated はディレクトリであり、その中にはたくさんの原稿ファイルがあります。ですがメインのリポジトリからは、サブモジュールの中身を 1 つ 1 つ追跡するようなことはしません。代わりにこのサブディレクトリを、親から見た「子の年齢」のような `+Subproject commit 6f47087f1c9079ea6c677702da23ca040d0a13ed` という 1 つのコミットとして記録していることが分かります。

1.4 サブモジュールを含むリポジトリをクローンしてこよう

今度は実際に `prh-rules` というサブモジュールを使っている原稿リポジトリをクローンしてみましょう。

```
サブモジュールを使っているメインリポジトリをクローンしてくる  
$ git clone https://github.com/mochikoAsTech/SubmoduleUpdated
```

`prh-rules` というディレクトリを開いてみましょう。なんと中身は空っぽです。実はサブモジュールを含むメインのリポジトリをクローンすると、「サブモジュールが入っているはずのディレクトリ」は取得できるのですが、最初の時点ではその中身は空っぽなのです。

サブモジュールを初期化する `--init` オプションを付けて、`git submodule update` することで、中身を連れてこられます。

```
サブモジュールの状態を初期化する（中身を連れてくる）  
$ git submodule update --init  
Submodule 'prh-rules' (https://github.com/mochikoAsTech/prh-rules) registered for  
Cloning into 'C:/Users/mochikoAsTech/Documents/SubmoduleUpdated/prh-rules'...  
Submodule path 'prh-rules': checked out 'f126abf930039a23d5e6ea9f418451fe69277d'
```

これで正誤表を含む校正ツールを一括持ってこられました。

1.5 最初からサブモジュールの中身も含めて全部連れてきたかった

空っぽの `prh-rules` を見ると「使いたいからサブモジュールとして指定してるの！なんでサブモジュールの中身も一緒に連れてきてくれないの！！」という気持ちになります。そういうときは `--recursive` オプションを付けてクローンすることで、最初からサブモジュールの中身も含めて全部まると連れてこられます。

```
サブモジュールも含めて全部まるとクローンしてくる  
$ git clone --recursive https://github.com/mochikoAsTech/SubmoduleUpdated
```

筆者はいちいちサブモジュールの有無を確認するのが面倒なので、リポジトリをクローンするときは基本的に`--recursive` オプションを付けています。

1.6 親子の関係

Git のメインリポジトリを親、サブモジュールを子だとします。

サブモジュールのリポジトリではコミットが「 $A \rightarrow B \rightarrow C$ 」で進んでいて、けれど親のリポジトリではまだ B を参照しているとします。この場合、親のリポジトリで `git submodule update` したら、サブモジュールは B を引っ張ってきます。

`git submodule update` とは、「子のサブモジュールを最新にしておくれ」ではなく、「"親が指定している子のコミット"に更新しておくれ」なのです。

1.7 git pull したただけなのに差分が出た

1.8 git checkout したただけなのに差分が出た

1.9 サブモジュールで git pull したただけなのに差分が出た

1.10 正しい差分の無くし方

あとがき

この原稿を書いたことで、「prh-rules（校正のルールを書いたファイルたち）をサブモジュールにすれば、本のリポジトリを作るたびに前回のリポジトリから prh-rules 持ってなくてもいいじゃん！」と気づいてしまったので、本当に本を書くのは自分にとっていいことだなあ、と思いました。まる。

数ある技術書の中から「Git のサブモジュールで困ったら読む本」を手にとってくださったあなたに感謝します。

2020 年 9 月
mochikoAsTech

PDF 版のダウンロード

本書はどなたでも PDF 版を無料ダウンロードできます。ぜひあなたの周りにいるサブモジュールでお悩みの方に知らせてあげてください。

- ダウンロード URL
– <https://mochikoastech.booth.pm/items/xxxxxxx>

Special Thanks:

- ねこ

レビューアー

- かしいねこ

参考文献・ウェブサイト

- git-scm.com
 - <https://git-scm.com/>

著者紹介

mochiko / @mochikoAsTech

テクニカルライター。元 Web 制作会社のインフラエンジニア。ねこが好き。「分からない気持ち」に寄り添える技術者になれるように日々奮闘中。技術書典で頒布した「DNSをはじめよう」「AWSをはじめよう」「技術をつたえるテクニック」「技術同人誌を書いたあなたへ」は累計で 9,700 冊を突破。

- <https://twitter.com/mochikoAsTech>
- <https://mochikoastech.booth.pm/>
- <https://note.mu/mochikoastech>
- <https://mochikoastech.hatenablog.com/>
- <https://www.amazon.co.jp/mochikoAsTech/e/B087NBL9VM>

Hikaru Wakamatsu

表紙デザインを担当。

Shinya Nagashio

挿絵デザインを担当。

Git のサブモジュールで困ったら読む本

2020 年 9 月 12 日 技術書典 9 初版

著 者 mochikoAsTech
デザイン Hikaru Wakamatsu / Shinya Nagashio
発行所 mochikoAsTech
印刷所 日光企画

(C) 2020 mochikoAsTech